

ウルムの聖堂にて

辻 泰一郎

今年の夏、私は久しぶりにドイツへ出かけ、レーゲンスブルクの学会に顔を出し久しぶりに恩師や知人達と旧交を温めることができたが、滞在中今まで行く機会がなかった所も訪れることができた。ドナウ河に面した古い帝国自由都市ウルムは今回是非とも行きたかった所で、特に壮大な大聖堂を見たかった。ゴシック様式の高い尖頭からの眺めも素晴らしかったが、聖堂内部の壮麗さ、大きさも圧巻だった。ひんやりしてほの暗い聖堂の一隅に、一冊の部厚いノートが広げられており、そこには大勢の人々の祈りの言葉が書き込まれていた。何げなく読んでいる中で簡潔だが印象深い一文が目にとまった。それは、"Lieber Herr, zeigen Sie mir bitte den richtigen Weg."とだけあった。

生きる中で私達は皆、いつも右か左かの選択を迫られ、判断に悩み、「正しい道」を探し求める。私達は自分の未来について何も知らない。しかし祈ることを通して、神から恵みと力、励ましを乞い、今までの自分と別れ、新たな自分を得る。祈りは未来に通じている。

ドイツではそのあとも幾つかの教会を訪れる機会を持ったが、祈りながら私は自分にとっての「正しい道」とは何かを自問していた。そしてそれは今も続いている。

(つじ たいいちろう

所員、法学部教授)